

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	・タブレット端末を効果的に活用し、児童一人ひとりの個別最適な学びを推進する。 ・教師と児童で授業を創り、問題解決型の学習を進めていく。 ・個別最適な学びが「孤立した学び」とならないよう、探究的な学習や体験活動を通じ、児童相互の協働的な学びを推進する。
環境作り		・児童が安心して学校に通えるように、安全・安心を第一に考え、学習に集中して取り組める環境を整える。 ・互いに認め励まし合える学級づくりを進めるとともに、ICT機器等を効果的に活用し、学習効果を高める。 ・保護者・地域と連携し、教育環境を整え、児童が学びに向き合い、自ら考え行動する教育を推進する。

■ 学年の取組について

学年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		・ 筆圧が弱かったり正しい持ち方ができなかったりして、線が震えたりはみ出たりすることがあるので、整った線で、正しく文字を書く力を身に付ける。 ・ ひらがなや漢字を筆順通りに書くことが定着しておらず、字形が整わないことがあるので、筆順や字のバランスを意識して書けるようにする。 ・ 言葉によって、漢字の読み方の使い分けができるようにする。 ・ 数の合成、分解や文章問題では、絵や問題中の数字のみを見て考えようとすることがあるので、図を描いたり、半具体物を操作したりして意味を理解して考える力を身に付けさせる。	① 字を書くときには、姿勢と鉛筆の持ち方について声をかける。 ② プリントやドリルで、なぞり書きに繰り返し取り組む。 ③ なぞり書きや空書きの回数を増やし、筆順やとめはねはらいを繰り返し指導する。 ④ 漢字ドリルで学習した後、タブレットを活用した復習を継続する。 ⑤ 半具体物の操作を1時間に1回取り入れたり、操作の仕方を言葉にしたりする。また問題文を図に表す活動を取り入れる。
2 学 年		・ 文や文章を正しく書くことに課題があるので、順番を意識した文章を書けるようにする。 ・ 短作文や日記を毎週書かせることで、論理だてて文章が書けるようになってきた。引き続き指導する。 ・ 考えたことや思ったことを言葉で説明することへの苦手意識をなくす。 ・ 「好き嫌い作文」を書かせたことで、理由を話すことができるようになった。	① 主語と述語の関係を確認する。話型や文型の指導をする。 ② 年間を通してスピーチや簡単な質疑応答の練習を行う。

		てきた。継続する。 ・ 数の合成、分解を考えるにあたって、問題文に線を引いたり、図を描いたりして考える力を身に付けさせる。 ・ タブレットで「ククハチジュウイチ」というアプリを使用したことで、児童の学習意欲が高まり、九九を覚える手助けとなった。今後も活用させたい。 ・ 作文では、句読点の付け忘れや「は・を・へ」の使い方が不十分なので、継続して指導する必要がある。	③ ペアでの話し合い活動を取り入れる。話を聞く時のポイントを押さえたり、相手に伝わる話し方を指導したりする。 ④ 文章問題で分かっていること、問われていることの確認をする。 ⑤ 問題解決型の学習を取り入れ、自力解決の時間を確保する。自分の考えを説明する機会を多く作るために個人→ペア→全体の流れで発表させる。
3 学 年	・ 自分の考えや思いついたことを文章にする前に、マインドマップを使って自由に図で表現させることで、文章を書くことへの苦手意識が減った児童が増えた。 ・ 文章の読み取りはできる一方、自分と比べて読んだり、考えたりすることにまだ課題がある。 ・ 算数の文章問題では、問題をきちんと読まず、正しく解答できない児童が多い。 ・ 話し合い活動では、相手に伝わるように話そうとする様子が見られる。相手の話を最後まで聞いて理解することができ児童が増えた。 ・ 基本的な計算は素早く正確にできる児童が多いが、新宿区学力定着度調査の結果では「数と計算」「図形」「測定」すべて区平均を上回っており、課題としていた「図形」も改善がみられる。	・ 考えたことや自分の気持ちを文章で表現することが苦手な児童に対しては、引き続きマインドマップなどの思考ツールを活用するように指導をする。 ・ 文章の内容の理解に加え、自分の経験と照らし合わせたり、もし自分も同じ状況になったらと想像したりできるようにする。 ・ 問題を読む際のポイントを押さえられるようにする。 ・ 話をする内容の精査をすることと、相手の話を集中して聞くための姿勢について引き続き指導する。 ・ 「データ活用」については、1学期に学習した「棒グラフ」の単元で「表」や「グラフ」の活用法を多くの児童が理解することができた。定規やコンパスの使い方がまだ定着していない児童がいるので、繰り返し練習させる必要がある。	① 自分の考えや意見を、言葉や図で表す。 ② 登場人物の気持ちが表れている箇所に線を引かせ、どのような気持ちか具体的に想像させる。 ③ 問題文の重要な言葉に印をつけるよう指導する。 ④ 話す人の方を見ながら、話の中心に気を付けて聞く態度を身に付けられるよう、日常的に繰り返し声を掛ける。 ⑤ 作図の学習に向けて、日常的に定規を使用して線を引く。 ⑥ 九九の定着が遅れている児童に対して、タブレットを使って繰り返し練習に取り組みさせ、引き続き定着を図るようにする。

4 学 年	・ 新宿区学力定着度調査の結果、国語「知識・技能」の正答率が高く、概ね定着している。日常で活用することができていないので、漢字を使って書くように日々指導する必要がある。 ・ 漢字を正しく読んだり、書いたりすることや、言葉の特徴や使い方をとらえることはよく身に付いているが、作文等で活用することに課題がある。 ・ 物語を読み取ることに關して、登場人物の行動や気持ちなど想像を膨らませることに課題がある。 ・ 自分の気持ちや考えを文章で書き表すことに課題がある。 ・ 国語は、全ての観点・領域で区平均を上回っている。 ・ 新宿区学力調査の結果、算数「思考・判断・表現」の正答率が区平均を下回っている。基礎基本に加え、思考力を高める問題にも継続して取り組ませる必要がある。 ・ 繰り上がりのあるたし算が全体的に苦手な傾向にある。繰り返し練習問題に取り組む等の指導が必要である。 ・ かけ算九九を定着させるため、引き続き練習が必要である。	・ 日頃からすすんで漢字を使おうとする態度を育てる必要がある。 ・ 「書くこと」を苦手としているので、主語と述語を対応させた文章の指導を継続して行う必要がある。 ・ 登場人物の行動や気持ちなど、叙述を基に想像を膨らませて物語を読み取る力を育成する。 ・ 経験したことから話題を決め、自分の気持ちや考えを文章で書き表す力の育成が必要である。 ・ 計算の基礎・基本を正しく理解し、正確に計算できる力を付けさせる。 ・ ものさしの目盛りや水のかさの単位など、数量感覚を育てる。 ・ 定規やコンパスの使い方、かけ算九九が定着していない児童がいる。	① 日記や振り返りを書かせる中で、学習した漢字を活用することを指導する。 ② 前年度の漢字テストも定期的に行う。 ③ 読み聞かせ後の、感想交流を行う。感想を書き、クラスみんなで共有することで、様々な読み取り、表現方法に気付かせる。 ④ 日記や振り返りを書かせて、自分の考えや意見を文章化する機会を増やす。 ⑤ 読売新聞ワークシート通信で、感想や要約に取り組み、文章を書くことに慣れさせる。 ⑥ 基礎的な計算練習、思考力を高める練習問題を定期的に行う。 ⑦ 計算ドリルとデジタルドリルを併用し、基礎・基本の力を定着させる。 ⑧ 新単元に入る前に、前年の系統単元についてデジタルドリルで復習させる。 ⑨ かけ算九九などは、個別宿題として取り組ませる。
----------------------	--	---	---

5 学 年	・ 新宿区学力定着度調査の結果、「読むこと」「書くこと」の正答率が高く、概ね定着している。また、文章の要旨のまとめ方を理解しながら、自分の力でまとめられるようになってきている。より簡潔に要点を絞って書けるようになるために、継続的な指導が必要である。 ・ 事実と意見、具体と抽象、などを区別して読むことや、場に応じた文を書き分けることなど、意識できていないことが多く、指導が必要である。 ・ 分数、小数の計算において、計算の仕方は概ね理解しているが、小数点の位置や繰り上がり、約分などのケアレスミスが多い。 ・ 新宿区学力定着度調査の結果、「データの活用」の領域を除いて、区平均を上回っており、学習が定着していることが伺える。 ・ 文章題の理解においては立式を間違えることが多く、何を計算で求めるかが理解できていない児童が多い。	・ 「読むこと」の学習では、指定の文字数で簡潔に要旨をまとめることができるよう、筆者の主張個所を意識して読んだり、キーワードを押さえたりしながら、要点を押さえて書く指導をしていく。 ・ 例文を用いて、事実と意見、具体と抽象の理解を深めながら、それを生かして書く活動を取り入れる。また、文章を書く際は、読む相手を意識して書かせることで、場に応じた文章が書けるようにする。 ・ 計算の順序を意識して書くようにするため、計算ドリルを活用し、基礎・基本の力を大切に育てていく。デジタルドリルを活用し、復習することも大切にし、正確に計算する力を身に付ける。また、習熟度によっては、難解な文章題にも取り組ませていく。 ・ 文章を一つ一つ大切に読み、情報を整理し、論理的に考える力を身に付ける。また、多様なデータから必要な情報を選ぶような活動も取り入れる。	① 説明文の単元では、筆者の意見を受けて、要旨をまとめる学習活動を行う。 ② 国語や社会、総合的な学習の時間などで調べ学習を行う際、事実と意見を分けて書く指導を行う。 ③ 国語のノートをマスノートにし、文字数を意識させて文章を書かせる。日記や学習感想、振り返りを書かせ、文章を書くことに慣れる。 ④ 少人数算数指導の際、習熟度に応じた問題に取り組ませる。 ⑤ 紙の計算ドリルで基礎・基本の力を定着させる。デジタルドリルで繰り返し計算問題の練習をしたり、個に応じた学習に取り組ませたりする。テストで誤回答の多い内容においては解説をきちんと行った後、デジタルドリルを活用して復習を行う。 ⑥ 問題の読み方を指導し、何を求めるかを意識させる。数直線や図を用いて、根拠をもって立式させる。 ⑦ 自分たちで課題設定し、課題を解決するためにデータを取りまとめるような課題解決学習を行う。
	〈国語〉 ・ 学力・学習状況調査の結果から、「話すこと・聞くこと」において、集めた情報を分類して	・ 授業全体を通して、文章を書く活動では習った漢字を使うことや主述の整った文章を書くための指導する必	① 6年生で学習する漢字だけでなく、5年生までに学習した漢字についてもデジタルド

6 学 年	関係付けることに課題がある。 ・ 新宿区学力定着度調査の結果、「話すこと・聞くこと」の領域を除いて、区平均を上回っており、学習が定着していることが伺える。 ・ 「読むこと」の中でも、「考えの形成」段階にあたる、自分の考えを文章に表現したりすることへの苦手意識が減ってきている。 〈算数〉 ・ 学力・学習状況調査においても、知識及び技能については定着が図れているようである。一方で、知識を活用する問題を苦手とする児童が多い。 ・ 昨年度、新宿区学力定着度調査で下回っていた「データの活用」も含め、すべての領域で区平均を上回っている。 ・ 算数を苦手としていない児童でも、計算間違いや小数点の位置を間違えるなど、単純なミスが多いため見直しをする習慣を身に付ける必要がある。また、式の意味を理解せず立式している児童が多い。	要がある。 ・ 今後も、自分の考えをもつために、視点を明らかにしてから活動をすすめていく。また、考えに対する根拠を明確にして自分の考えを表現させる。また、中間交流を取り入れることで、書く前に考えを整理する時間を確保する。 ・ 集めた情報を、項目立てたり比較・整理したりできるようにして、伝えたいことに説得力をもたせられるようにする。 ・ 見直しや検算の重要性を指導し、粘り強く学習に取り組む習慣を児童に身に付けさせる。また、デジタルドリルを活用し、繰り返し計算練習に取り組ませる。 ・ 式を立てる前に、問題文のキーワードを確認するなど内容を理解させてから問題に取り組ませるようにする。 ・ 知識を活用する問題を授業の中で多く取り上げ、思考が整理できるように、段階を踏んで考えられるようにしていく。	リルで習熟を図っていく。また紙ドリルで主述の整った文を書けるように指導を行う。 ② 自分の考えをもち、表現できる子の育成を目指し、週末にテーマ日記を行う。適宜、教師が児童に紹介することで、「考えを表現する」ことへの苦手意識の軽減を図る。互いに書いたものを共有する時間や書く前に考えを交流する時間を確保する。 ③ 集めた情報を、一人で整理するのではなく、グループでの学習を取り入れ、どのように整理できるか、友達と相談したり、助言し合ったりする時間を確保する。 ④ 学習したことの定着を図るため、紙ドリルを使用する。間違った問題は即時指導を行う。また、児童の苦手に応じてデジタルドリルで習熟を図る。 ⑤ 既習事項を想起させ、どの考え方を活用できるかを選ばせたり、思考のヒントを与えたりすることで、段階踏んで考えられるようにする。
----------------------	---	---	--